

ウィルグループは4月から、1級施工管理技士の1次検定対策アプリ「STADIV（スタディア）」を一般企業向けに提供開始する。まずは電気工事、管工事の2分野で導入を進める。建設業界で深刻化する技術者不足を背景に、既存人材の育成や資格取得支援を強化する。

スタディアは、過去問題の選択肢や出題要素を最小単位まで分解し、一問一答形式で再構成した点が特徴。従来のように4択問題を繰り返すのではな



ウィルグループが開発

出テーマを絞り込んだほか、個人ごとの学習履歴や正答率を可視化し、苦手分野の克服も後押しする。管理者画面では従業員

1級施工管理の1次検定対策アプリ

AIが傾向分析、苦手も克服

く、知識を細かく分けて理解、定着、演習へと段階的に学べるようにした。通勤時間など短時間でも学習しやすい設計で、再現性の高い合格を目指す。

同社によると、合格者の平均学習時間は過去問中心の学習で約122時間かかる。一方、「一問一答+過去問」の学習では約40時間まで短縮でき、大幅な削減効果が見込めるという。

AIによる出題傾向分析と資格講師の知見を組み合わせ、頻

ごとの進捗（しんちよく）状況も把握でき、企業単位の育成管理に活用できる。

昨今の建設業界は、文系出身者や未経験入職者が増加して入社時の前提知識が多様化している。同社は、資格取得を個人任せにせず、企業が支える育成基盤への転換が必要だとしている。今後は他分野への展開も視野に入れ、建設業界の育成DX（デジタルトランスフォーメーション）を後押しする考え。

